

令和3年度 施設分析シート

I 施設の概要		施設コード	S05-01-01		
施設名	区民会館（サンパール荒川）				
所在地	荒川一丁目1番1号				
部課名	地域文化スポーツ部文化交流推進課				
施設の履歴	時期	建築費 (単位:千円)	財源内容 (単位:千円)		
			国・都	区債	一般財源
建築	昭和50年	1,950,000			
増改築①	平成4年	1,540,000	0	0	1,540,000
増改築②	平成27年	2,460,000	110,000	1,940,000	410,000
併設施設					
竣工年月日	昭和50年3月26日		区職員	その他	
供用開始年月日	昭和50年3月26日		職員数	0	37
構造	鉄骨鉄筋コンクリート造		階層	地下1階、地上6階	
面積	敷地面積		4279.01m ²		
	延床面積		10044.09m ²		
設置目的・経緯	区民の文化の向上と地域のコミュニティ活動の促進を図るため				
関連部署					
根拠法令等 設置条例	荒川区民会館条例				
駐車場の状況	20台	バリアフリー	● エレベーター	● だれでもトイレ	
駐輪場の状況	111台	対応状況	● 点字ブロック	● スロープ	



II 管理運営の状況

管理形態	指定管理	(株)ケイミックスパブリックビジネス	期間	平成30年4月1日 令和5年3月31日	から まで	
事業内容	○文化活動の実施に関する事業 ○文化活動及び地域コミュニティ活動に関する相談及び情報の提供に関する事業 ○会館の施設の利用に関する事業 ○その他区長が必要と認める事業					
対象者	区民及び施設利用者					
運営時間等	運営時間	午前9時から午後10時まで				
	休日	年末年始（12月29日～1月3日）及び工事、保守点検日				
施設基本データ等		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度（見込み）
	大ホール年間利用者数（人）	156,510	149,169	128,736	28,519	102,141
	小ホール年間利用者数（人）	53,329	60,189	45,743	14,747	40,226
	集会室年間利用者数（人）	80,518	73,225	64,599	19,349	52,391
	大ホール貸出稼働率（%）	63	61	58	24	48
	小ホール貸出稼働率（%）	55	60	57	31	49
	集会室貸出稼働率（%）	41	42	40	20	34
	文化芸能のイベント数	252	241	241	174	219
に指定管理等に係る費用	指定管理料（千円）	154,313	153,263	150,563	129,498	187,715
	指定管理者の支出合計（千円）	226,012	215,090	220,378	194,594	229,620
	指定管理者の人員費（千円）	64,952	35,987	40,926	36,117	39,144
	指定管理者の利用料金収入（千円）	75,235	76,261	79,236	76,746	40,675
備考	令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、利用自粛要請（令和2年4月1日～4月7日）、休館（受付のみ営業）（令和2年4月8日～5月31日）、定員の制限（令和2年6月1日～令和3年3月31日）、施設の利用時間を午後7時までに変更（令和3年1月8日～3月31日）、その他状況に応じ利用目的の制限等を実施したため、利用が大幅に減少した。					

III 財務諸表

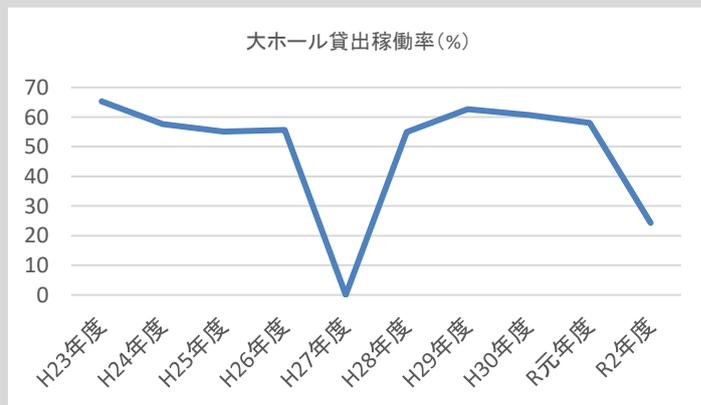
(単位:千円)

行政コスト計算書	勘定科目	R元年度	R2年度	差額	勘定科目	R元年度	R2年度	差額
	行政費用	給与関係費	0	0	0	地方税等	0	0
物件費		176,220	188,340	12,120	国庫支出金	0	0	0
維持補修費		0	31,155	31,155	都支出金	0	0	0
扶助費		0	0	0	分担金及び負担金	0	0	0
補助費等		60	2,137	2,077	使用料及び手数料	4,148	484	▲ 3,664
減価償却費		15,930	15,930	0	その他	10,761	11,275	514
不納欠損・貸倒引当金繰入額		0	0	0	行政収入合計(a)	14,909	11,759	▲ 3,150
賞与・退職給与引当金繰入額		0	0	0	行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲ 177,301	▲ 227,233	▲ 49,932
その他行政費用		0	1,430	1,430	金融収支差額(d)	▲ 3,536	▲ 3,275	261
行政費用合計(b)		192,210	238,992	46,782	通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲ 180,837	▲ 230,508	▲ 49,671
特別費用(g)	0	0	0	特別収入(f)	0	0	0	
特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	▲ 180,837	▲ 230,508	▲ 49,671	
貸借対照表	勘定科目	R元年度	R2年度	差額	勘定科目	R元年度	R2年度	差額
	流動資産	0	0	0	流動負債	190,533	190,649	116
	不納欠損引当金	0	0	0	還付未済金	0	0	0
	その他の流動資産	0	0	0	特別区債	190,533	190,649	116
	有形固定資産	102,231	125,538	23,307	賞与引当金	0	0	0
	土地	102,231	125,538	23,307	その他の流動負債	0	0	0
	建物	1,955,347	1,955,347	0	固定負債	1,299,563	1,139,913	▲ 159,650
	建物減価償却累計額	▲ 1,955,347	▲ 1,955,347	0	特別区債	1,299,563	1,139,913	▲ 159,650
	工作物等	0	0	0	退職給与引当金	0	0	0
	工作物等減価償却累計額	0	0	0	その他の固定負債	0	0	0
無形固定資産	0	0	0	負債の部合計	1,490,096	1,330,562	▲ 159,534	
建設仮勘定	0	0	0	正味財産	▲ 1,347,683	▲ 1,180,772	166,911	
その他の固定資産	40,182	24,252	▲ 15,930	正味財産の部合計	▲ 1,347,683	▲ 1,180,772	166,911	
資産の部合計	142,413	149,790	7,377	負債及び正味財産の部合計	142,413	149,790	7,377	
備考	物件費が令和元年度と比べて増加した理由は、新型コロナウイルス感染症の影響により指定管理者へキャンセル還付による補填を行ったためである。維持補修費は、東京都市計画道路補助線街路第90号線整備事業に係る土地購入であり、貸借対照表による固定資産においても土地資産が増加した。							

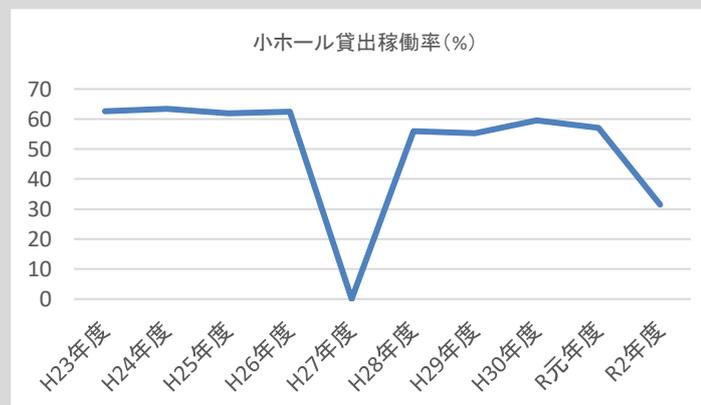
指標		H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度(見込み)
財務指標・評価指標等	有形固定資産減価償却率(%)	100	100.0	100.0	100.0	100
	1㎡当たりコスト(円)	18,353	18,483	19,137	23,794	20,471
	人にかかるコストの割合(指定管理)(%)	29	16	19	18.6	18
	受益者負担比率(%)	30	30	30	25.2	28
	開館1日当たりコスト(円)	514,925	518,553	535,404	665,716	573,224
	利用者1人当たりコスト(円)	635	657	804	3,817	1,759
	区民1人当たりコスト(円)	900	859	885	1,100	948
備考	2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により稼働率が大幅に低下したため、開館1日当たりのコスト、利用者1人当たりのコスト、区民1人当たりコストが前年度に比べ増加した。					

IV 施設運営の方向性(所管の考え方)

計画の有無	● 無 ○ 有 (計画名:)					
目標指標	指標名・単位	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度(見込み)
	文化芸能の利用人数	目標値 122,000	122,000	122,000	122,000	122,000
		実績値 87,483	64,509	70,309	18,566	51,128
施設運営の方向性	○ 転用・多目的化 ○ 民営化 ○ 他施設との統合 ○ 廃止 ● 現状維持 ○ その他()					
管理形態の変更の推移	● 有 (変更内容: 平成2年度:荒川区地域振興公社へ運営委託、平成18年度:指定管理者制度導入) ○ 無					
利用者・地域のニーズ	施設利用者へのきめ細やかな対応					
現状・課題	○平成4年度(第1回)、平成27年度(第2回)に大規模改修を実施した。 ○敷地の一部が東京都市計画道路補助線街路第90号線の予定地であるため、整備後に施設運営に支障がでないよう、関係機関と調整を図る。 ○利用者から日々寄せられる多様化するニーズへの対応が求められる。 ○新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、適宜、適切な制限等を検討・実施しながら、安全・安心に利用できる環境を整える必要がある。					
課題に対する現時点での考え	○都市計画道路整備の影響が最小限となるよう関係機関に要請していく。 ○利用者ニーズに柔軟に対応できるよう、指定管理者と施設管理やサービス面向上策について緊密な連携を図っていく。 ○コロナ禍に合わせた施設稼働率の向上及び利用者数の増加に向けた取り組みを指定管理者と協議し、実施していく。					
議会、利用者等からの意見	平成27年度9月会議 「荒川区民会館の長寿命化について」 令和2年度9月会議 「サンパール荒川の今後の在り方について」					



令和2年度は、緊急事態宣言の発出等を受け、施設の休館及び利用制限を行ったことにより、利用者数が減少している。



令和2年度は、緊急事態宣言の発出等を受け、施設の休館及び利用制限を行ったことにより、稼働率が下がっている。

令和3年度 施設分析シート

I 施設の概要		施設コード	S05-01-02		
施設名	日暮里サニーホール				
所在地	東日暮里五丁目50番5号 ホテルラングウッド4階・5階				
部課名	地域文化スポーツ部文化交流推進課				
施設の履歴	時期	建築費 (単位:千円)	財源内容 (単位:千円)		
			国・都	区債	一般財源
	建築	平成元年 2,000,000	0	0	2,000,000
	増改築① 増改築②				
併設施設	-				
竣工年月日			区職員	その他	
供用開始年月日	平成元年2月9日		職員数	0人	19人
構造	S R C造		階層	地上13階、地下3階の内、4・5階部分	
面積	敷地面積	3100.03m ² の一部 m ²			
	延床面積	23562.71m ² の内、2311.28m ² m ²			
設置目的・経緯	区民文化の向上と地域のコミュニティ活動の促進を図る。				
関連部署	経理課				
根拠法令等 設置条例	日暮里サニーホール条例及び条例施行規則				
駐車場の状況	3台	バリアフリー	● エレベーター	● だれでもトイレ	
駐輪場の状況	無	対応状況	○ 点字ブロック	○ スロープ	



II 管理運営の状況

管理形態	指定管理	(株) コングレ	期間	平成30年4月1日 令和5年3月31日	から まで	
事業内容	○文化活動の実施に関する事業 ○文化活動及び地域コミュニティ活動に関する相談及び情報の提供に関する事業 ○サニーホールの施設の利用に関する事業 ○その他区長が必要と認める事業					
対象者	区民及び施設利用者					
運営時間等	運営時間	午前9時～午後10時まで				
	休日	年末年始(12月29日～1月3日)及び工事、保守点検日				
施設基本データ等		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度(見込み)
	総利用者数(人)	145,404	140,554	143,985	17,149	100,563
	ホール年間利用者数(人)	69,066	67,223	69,144	6,508	47,625
	サロン年間利用者数(人)	34,131	33,531	33,060	4,736	23,776
	ホール稼働率(%)	69	65	63	10	46
	サロン稼働率(%)	90	94	88	21	68
	文化、芸能のイベント件数(件)	650	604	512	129	415
に指定管理に係る費用	指定管理料(千円)	36,607	40,016	40,197	33,250	85,876
	指定管理者の支出合計(千円)	89,835	98,127	109,618	104,154	100,203
	指定管理者の人件費(千円)	51,870	45,347	56,452	58,962	45,126
	指定管理者の利用料金収入(千円)	57,466	56,760	57,583	28,997	14,107
備考	令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、利用自粛要請(令和2年4月1日～4月7日)、休館(受付のみ営業)(令和2年4月8日～5月31日)、定員の制限(令和2年6月1日～令和3年3月31日)、施設の利用時間を午後7時までに変更(令和3年1月8日～3月31日)、その他状況に応じ利用目的の制限等を実施したため、利用が大幅に減少した。					

III 財務諸表

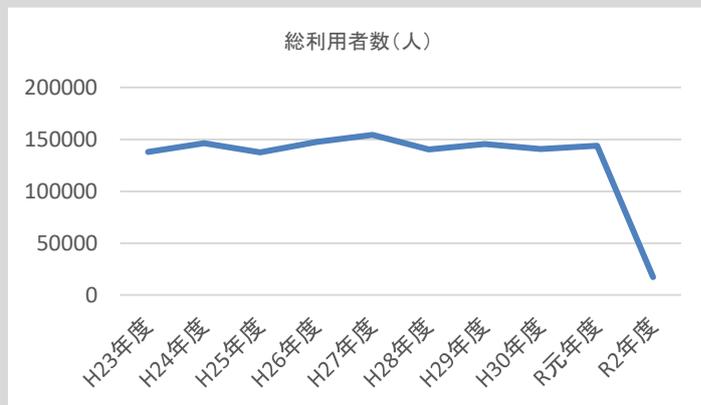
(単位:千円)

行政コスト計算書	勘定科目	R元年度	R2年度	差額	勘定科目	R元年度	R2年度	差額
	給与関係費	0	0	0	地方税等	0	0	0
	物件費	55,216	56,935	1,719	国庫支出金	0	652	652
	維持補修費	0	0	0	都支出金	0	0	0
	扶助費	0	0	0	分担金及び負担金	0	0	0
	補助費等	12,734	42,011	29,277	使用料及び手数料	0	0	0
	減価償却費	36,010	36,010	0	その他	10,763	7,926	▲ 2,837
	不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0	行政収入合計(a)	10,763	8,578	▲ 2,185
	賞与・退職給与引当金繰入額	0	0	0	行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲ 93,197	▲ 126,378	▲ 33,181
	その他行政費用	0	0	0	金融収支差額(d)	0	0	0
	行政費用合計(b)	103,960	134,956	30,996	通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲ 93,197	▲ 126,378	▲ 33,181
	特別費用(g)	0	0	0	特別収入(f)	0	0	0
特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	▲ 93,197	▲ 126,378	▲ 33,181	
貸借対照表	勘定科目	R元年度	R2年度	差額	勘定科目	R元年度	R2年度	差額
	流動資産				流動負債			
	収入未済	0	0	0	還付未済金	0	0	0
	不納欠損引当金	0	0	0	特別区債	0	0	0
	その他の流動資産	0	0	0	賞与引当金	0	0	0
	有形固定資産	217,394	181,384	▲ 36,010	その他の流動負債	0	0	0
	土地	0	0	0	固定負債	0	0	0
	建物	1,333,703	1,333,703	0	特別区債	0	0	0
	建物減価償却累計額	▲ 1,116,310	▲ 1,152,320	▲ 36,010	退職給与引当金	0	0	0
	工作物等	0	0	0	その他の固定負債	0	0	0
	工作物等減価償却累計額	0	0	0	負債の部合計	0	0	0
	無形固定資産	0	0	0	正味財産	223,332	187,322	▲ 36,010
建設仮勘定	2,938	2,938	0	正味財産の部合計	223,332	187,322	▲ 36,010	
その他の固定資産	3,000	3,000	0	負債及び正味財産の部合計	223,332	187,322	▲ 36,010	
資産の部合計	223,332	187,322	▲ 36,010					
備考	「物件費」「補助費等」の増加は、新型コロナウイルス感染症の影響に係る指定管理者への補填(還付補填及び減収補填)が主な理由である。							

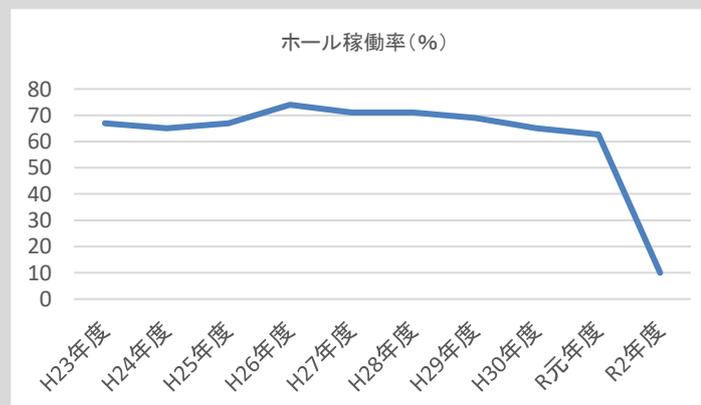
指標		H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度(見込み)
財務指標・評価指標等	有形固定資産減価償却率(%)	78	81.0	83.7	86.4	84
	1㎡当たりコスト(円)	42,386	41,796	44,979	58,390	48,389
	人にかかるコストの割合(指定管理)(%)	58	46	51.5	56.6	46
	受益者負担比率(%)	38.0	37	33	14.1	70
	開館1日当たりコスト(円)	272,886	269,838	289,582	375,922	311,781
	利用者1人当たりコスト(円)	674	687	722	7,870	3,093
	区民1人当たりコスト(円)	459	447	479	621	516
備考	2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により稼働率が大幅に低下したため、開館1日当たりのコスト、利用者1人当たりのコスト、区民1人当たりコストが前年度に比べ増加した。					

IV 施設運営の方向性(所管の考え方)

計画の有無	● 無 ○ 有 (計画名:)					
目標指標	指標名・単位	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度(見込み)
	文化芸能の利用人数	目標値 65,000	72,000	72,000	7,200	50,000
		実績値 70,790	63,691	59,600	5,320	45,000
施設運営の方向性	○ 転用・多目的化 ○ 民営化 ○ 他施設との統合 ○ 廃止 ● 現状維持 ○ その他()					
管理形態の変更の推移	● 有 (変更内容: 平成1年度:荒川区地域振興公社へ運営委託、平成18年度:指定管理者制度導入) ○ 無					
利用者・地域のニーズ	施設利用者へのきめ細やかな対応					
現状・課題	○開館から30年を経て、施設全体の老朽化が目立ち始めているため、適切な保守により維持管理に努める必要がある。修繕の実施にあたっては、指定管理者とホテルラングウッドとの連絡・調整が必要である。 ○利用者から日々寄せられる多様化するニーズへの対応が求められる。 ○新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、適宜、適切な制限等を検討・実施しながら、安全・安心に利用できる環境を整える必要がある。					
課題に対する現時点での考え	○関係部署や施設と調整し、今後の修繕計画について検討する。 ○利用者ニーズに柔軟に対応していけるよう、指定管理者と施設管理やサービス向上策について緊密な連携を図っていく。 ○コロナ禍にあわせた施設稼働率の向上及び利用者数の増加に向けた取り組みを指定管理者と協議・検討していく。					
議会、利用者等からの意見						



令和2年度は、緊急事態宣言の発出等を受け、施設の休館及び利用制限を行ったことにより、利用者数が減少している。



令和2年度は、緊急事態宣言の発出等を受け、施設の休館及び利用制限を行ったことにより、稼働率が下がっている。

令和3年度 施設分析シート

I 施設の概要		施設コード	S05-01-03		
施設名	ムーブ町屋				
所在地	荒川七丁目50番9号 センターまちや3階・4階				
部課名	地域文化スポーツ部文化交流推進課				
施設の履歴	時期	建築費 (単位:千円)	財源内容 (単位:千円)		
			国・都	区債	一般財源
建築	平成8年	4,970,000	0	3,470,000	1,500,000
増改築①					
増改築②					
併設施設	-				
竣工年月日			区職員	その他	
供用開始年月日	平成8年6月1日		職員数	0人	11人
構造	SRC造		階層	地上22階、地下2階の内、3・4階部分	
面積	敷地面積		3221.29m ² の一部		
	延床面積		25557.45m ² の内、2797.17m ²		
設置目的・経緯	区民文化の向上と地域のコミュニティ活動の促進を図る。				
関連部署	土木管理課、就労支援課				
根拠法令等 設置条例	荒川区ムーブ町屋条例及び条例施行規則				
駐車場の状況	1台	バリアフリー	エレベーター	だれでもトイレ	
駐輪場の状況	22台	対応状況	点字ブロック	スロープ	



II 管理運営の状況

管理形態	指定管理	(株) コングレ	期間	平成30年4月1日 令和5年3月31日	から まで	
事業内容	○文化活動の実施に関する事業 ○文化活動及び地域コミュニティ活動に関する相談及び情報の提供に関する事業 ○ムーブ町屋の施設の利用に関する事業 ○その他区長が必要と認める事業					
対象者	区民及び施設利用者					
運営時間等	運営時間	午前9時～午後10時まで				
	休日	年末年始(12月29日～1月3日)及び工事、保守点検日				
施設基本データ等		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度(見込み)
	総利用人数(人)	84,786	74,027	79,467	6,920	53,471
	ホール年間利用者数(人)	40,728	37,465	40,668	3,874	27,336
	ギャラリー年間利用者数(人)	31,453	17,907	20,812	464	13,061
	ムーブホール稼働率(%)	64	56	61	12	43
	ギャラリー稼働率(%)	53	36	26	4	22
	文化、芸能のイベント数(件)	600	681	670	502	618
に指定 用係る 等管理 費	指定管理料(千円)	35,550	34,030	33,074	34,643	57,350
	指定管理者の支出合計(千円)	64,914	64,959	61,880	58,520	65,293
	指定管理者の人員費(千円)	38,228	35,878	35,265	35,974	31,878
	指定管理者の利用料金収入(千円)	32,144	27,723	31,032	13,569	7,793
備考	令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、利用自粛要請(令和2年4月1日～4月7日)、休館(受付のみ営業)(令和2年4月8日～5月31日)、定員の制限(令和2年6月1日～令和3年3月31日)、施設の利用時間を午後7時までに変更(令和3年1月8日～3月31日)、その他状況に応じ利用目的の制限等を実施したため、利用が大幅に減少した。					

III 財務諸表

(単位:千円)

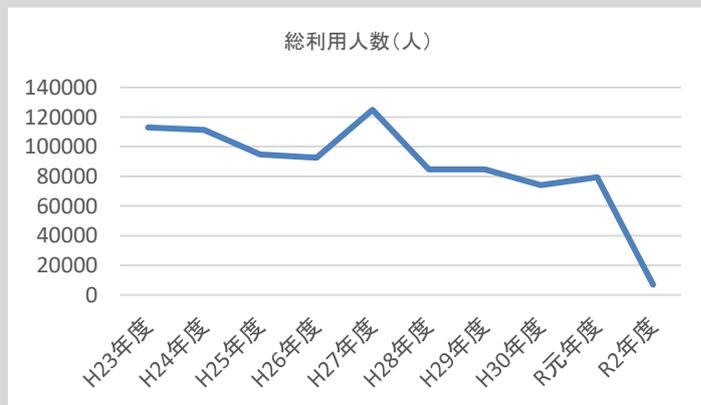
行政コスト計算書	勘定科目	R元年度	R2年度	差額	勘定科目	R元年度	R2年度	差額
	給与関係費	0	0	0	地方税等	0	0	0
物件費	38,489	47,531	9,042	国庫支出金	0	488	488	
維持補修費	528	0	▲ 528	都支出金	0	0	0	
扶助費	0	0	0	分担金及び負担金	0	0	0	
補助費等	63,139	60,721	▲ 2,418	使用料及び手数料	0	0	0	
減価償却費	91,001	91,001	0	その他	37	1,319	1,282	
不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0	行政収入合計(a)	37	1,807	1,770	
賞与・退職給与引当金繰入額	0	0	0	行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲ 193,120	▲ 197,446	▲ 4,326	
その他行政費用	0	0	0	金融収支差額(d)	0	0	0	
行政費用合計(b)	193,157	199,253	6,096	通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲ 193,120	▲ 197,446	▲ 4,326	
特別費用(g)	0	0	0	特別収入(f)	0	0	0	
特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	▲ 193,120	▲ 197,446	▲ 4,326	
貸借対照表	勘定科目	R元年度	R2年度	差額	勘定科目	R元年度	R2年度	差額
	流動資産				流動負債			
	収入未済	0	0	0	還付未済金	0	0	0
	不納欠損引当金	0	0	0	特別区債	0	0	0
	その他の流動資産	0	0	0	賞与引当金	0	0	0
	有形固定資産	2,703,028	2,612,027	▲ 91,001	その他の流動負債	0	0	0
	土地	1,516,648	1,516,648	0	固定負債	0	0	0
	建物	3,370,397	3,370,397	0	特別区債	0	0	0
	建物減価償却累計額	▲ 2,184,017	▲ 2,275,018	▲ 91,001	退職給与引当金	0	0	0
	工作物等	0	0	0	その他の固定負債	0	0	0
工作物等減価償却累計額	0	0	0	負債の部合計	0	0	0	
無形固定資産	0	0	0	正味財産	2,705,288	2,614,287	▲ 91,001	
建設仮勘定	2,260	2,260	0	正味財産の部合計	2,705,288	2,614,287	▲ 91,001	
その他の固定資産	0	0	0	負債及び正味財産の部合計	2,705,288	2,614,287	▲ 91,001	
資産の部合計	2,705,288	2,614,287	▲ 91,001					

備考 「物件費」の増加は、新型コロナウイルス感染症の影響に係る指定管理者への補填が主な理由である。「補助費等」の減少は、新型コロナウイルス感染症の影響に係る管理組合への負担金の減が主な理由である。

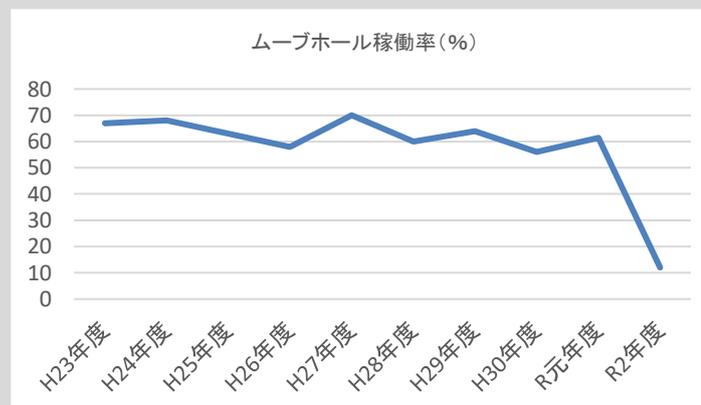
指標		H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度(見込み)
財務指標・評価指標等	有形固定資産減価償却率(%)	59	62	64.8	67.5	62
	1㎡当たりコスト(円)	65,863	65,387	69,054	71,234	68,558
	人にかかるコストの割合(指定管理)(%)	59	55	57.0	61.5	55
	受益者負担比率(%)	15.0	13	14.0	6.1	13
	利用者1人当たりのコスト(円)	2,173	2,471	2,431	28,794	11,232
	開館1日当たりのコスト(円)	513,178	510,891	538,042	555,022	534,652
	区民1人当たりコスト(円)	858	846	889	918	884
備考	2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により稼働率が大幅に低下したため、開館1日当たりのコスト、利用者1人当たりのコスト、区民1人当たりコストが前年度に比べ増加した。					

IV 施設運営の方向性(所管の考え方)

計画の有無	● 無 ○ 有 (計画名:)					
目標指標	指標名・単位	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度(見込み)
	文化芸能の利用人数	目標値 32,000	32,500	32,500	5,000	20,000
		実績値 31,191	27,389	29,336	3,349	8,000
施設運営の方向性	○ 転用・多目的化 ○ 民営化 ○ 他施設との統合 ○ 廃止 ● 現状維持 ○ その他()					
管理形態の変更の推移	● 有 (変更内容: 平成8年度:荒川区地域振興公社へ運営委託、平成18年度:指定管理者制度導入) ○ 無					
利用者・地域のニーズ	施設利用者へのきめ細やかな対応					
現状・課題	<p>○開館から23年を経て、施設全体の老朽化が目立ち始めているため、適切な保守により維持管理に努める必要がある。修繕実施にあたっては、指定管理者とセンターまちや管理組合との連絡・調整が必要である。</p> <p>○利用者から日々寄せられる多様化するニーズへの対応が求められる。</p> <p>○施設やその利用方法を広く周知し、利用者の拡大を図る。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、適宜、適切な制限等を検討・実施しながら、安全・安心に利用できる環境を整える必要がある。</p>					
課題に対する現時点での考え	<p>○関係部署や施設と調整し、町屋区民事務所の移転とあわせて今後の修繕計画を検討する。</p> <p>○利用者のニーズに柔軟に対応していけるよう、指定管理者と施設管理やサービス向上策について緊密な連携を図っていく。</p> <p>○コロナ禍にあわせた施設稼働率の向上及び利用者数の増加に向けた取り組みを指定管理者と協議し、検討していく。</p>					
議会、利用者等からの意見						



令和2年度は、緊急事態宣言の発出等を受け、施設の休館及び利用制限を行ったことにより、利用者数が減少している。



令和2年度は、緊急事態宣言の発出等を受け、施設の休館及び利用制限を行ったことにより、稼働率が下がっている。